

身延町 下部温泉郷

”しもべ奥の湯“

高温源泉の温泉相特性

天然の温泉は、悠久の大地の語り部である。「しもべ奥の湯高温源泉」は、新旧日本列島斜交衝突大地“形成のドラマを物語る名湯である。

「下部奥の湯高温源泉」は古い日本列島を横断するフォッサ・マグナ（大地裂帯）に誕生した新湯である。

いまから1500万年〜1000万年前、南部フォッサ・マグナの海底火山堆積物の新第三系御坂層群の岩盤中に、太平洋プレートの西進、フィリピン海プレート
の北北西進の応力により形成された、「しもべ廻り沢深部断裂温泉帯」（2005・田中収）の地下深部約900メートルの主断層破砕帯、約1200メートルの断層破砕帯を中心に悠久の時の流れの中で涵養され、自噴した天然温泉としての極めて貴重な名湯である。



武田信玄の隠し湯、古き時代より湯治湯として有名な摂氏30度前後の低温源泉の湯の里に、2006年、摂氏51度、湧出量毎分445リットル（動力揚湯）、泉質は高いアルカリ性ながら硫酸塩系のマイルドな単純温泉という極めて貴重な新温泉源の掘削に成功、しもべ温泉郷の人々の長年の悲願が成就された高温源泉の誕生である。

硫酸塩泉系（石膏泉、芒硝泉）の代表的温

泉の草津温泉、玉川温泉等は強酸性の温泉であるが、「しもべ奥の湯高温源泉」はペーハー9・3の高いアルカリ性でありながら、硫酸塩泉系という極めてユニークな泉質であり、メタケイ酸、メタホウ酸、硫化水素イオン系も含有し、浴後、最高の湯上がり状態になる名湯であり、生活習慣病等健康にも有効な泉質として期待されると考えられる。温泉環境としても、海拔200メートル台で副交感神経が卓越しやすく、身体全体を保護的条件で包み、病人やお年寄りでも最適な標高にありながら、深山峡谷の地形的条件を有し、多様な樹木のフィトンチッドのシャワーを浴びることの出来る温泉地として、「休養」「保養」「療養」の三養に最適な温泉郷になりえる温泉相（スパ・ファーズ）の名湯である。また、新温泉源のほのかな硫

黄臭は湯の里の温泉文化を醸す最高の湯治湯になると考えられる。「しもべ温泉郷」は、富士川“みのぶ”フィールドミュージアムを中心とした、エコ・ツアーのふる里であり、最適なヘルスツアーの健康資源環境の里として、最高の温泉郷になると考えられる。古い歴史のある湯治場としてのしもべ温泉が極めて良質な新温泉源成功により、医療費や介護費用の削減に貢献し、より多くの人々の心と身体の癒しによる健康増進と至福の時を過ごす最高の湯の里になれば幸いである。

温泉環境「温泉相」研究会会長
地下水資源保全・活用研究会会長
環境影響評価等技術審議会会長
富士山環境学術調査研究会会長
宝石貴金属協会名誉会長
大月短期大学（地球科学）

名誉教授 田中 収

